

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪社会≫

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習のキーワードの「ことば」や、「見る・聞く・ふれる」・「読み取る」のコーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、くらしの安全を守るために自分たちができることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「日本の未来と日本の役割」で、持続可能な開発目標(SDGs)が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、目の不自由な人のためのペンを設計した町工場が紹介されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、「食品ロス」の問題や、これからの日本の食料生産について考える内容が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地震からくらしを守る取組を「自助・共助・公助・互助」の観点でまとめる活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すように、学習の流れを理解するための「つかむ」「しらべる」「まとめる」のマークや「本時のめあて」が掲載されている。 □ 各学年の該当ページに「教科関連マーク」を表示して、理科・国語・家庭科等の関連する教科の学習内容が個別に記載されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、単元の終末「まとめる」や「いかす」で、話し合い活動をもとに宣伝シールをつくる活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「きょう土の伝統・文化と先人たち」で、伝統芸能を年表にまとめる活動が取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第4学年「自然災害からくらしを守る」で、避難所を疑似体験して「共助」について考える活動が設定されている。 □ 第6学年の巻末「中学校に向けて」で、「歴史」「地理」「公民」に分けて紹介され、中学校への期待について書く活動が記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「四コマCMをつくろう」や、第5学年「プレゼンテーションの資料をつくる」などの情報のまとめ方が示されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図において、色の違いだけでなく、模様や形などでも判別することが可能となっている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 全学年の巻頭に「○年生で学んだこと」「○年生で学ぶこと」が、巻末に「○年生で学んだこと」が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、地球儀における距離や方位の調べ方などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年下「情報化した社会と産業の発展」で、さまざまな立場に立って話し合う場面が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年において、「社会的事象の見方・考え方」を働かせた問いが、キャラクターを目印にした囲みで示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 第3学年及び第4学年は各1冊、第5学年は上下巻で2冊、第6学年は政治・国際編と歴史編の2冊である。 □ 「つかむ」「しらべる」「まとめる」単元の学習活動について、各活動ごとに、マークの形や色が統一されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《社会》

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「キーワード」や、情報を「集める」・「読み取る」コーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、地震や津波への備えなど、自分たちに行えることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、世界での日本人の活躍とともに、ともに助け合う大切さとして、東日本大震災が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、聴覚に障がいのある人が自動車工場で働く写真が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、フードマイレージや地産地消について取り上げられ、また、郷土料理について取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地震や津波からの身の安全について、自分にできることを選択・判断する活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すために、「この時間の問い」と「次につなげよう」や、「みんなでつくった学習問題」が掲載されている。 □ 第3・4学年の巻頭に「他の教科とのかかわり」として、国語・算数・理科・英語・道徳の学習内容が記載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、単元の終末「まとめる」で、販売側と消費者側の双方の立場に立った資料を基に話し合う活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「地域でうけつがれてきたもの」で、阿波踊りが古くから受け継がれてきたことを示す年表や写真が掲載されている。 □ 体験活動に関して、第3学年「わたしたちの市の歩み」で、課題を追究する活動として市のうつつりかわりを聞き取るインタビューが設定されている。 □ 第6学年の巻末「中学生になったら…」で、第6学年の学習を、中学校での「地理・歴史・公民」の分野の学習につなげて記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第3学年の巻末「ワクワク!社会科ガイド」で、本やインターネットの調べ方などについて掲載されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図や資料において、分布について色だけでなく形で判別することが可能となっている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 全学年の巻頭に「前の学年をふり返ろう」が、巻末に「○年生の学習をふり返ろう」が掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、世界地図と地球儀の違いを読み取る活動などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年「未来を考える食料生産」で、生産者・消費者の立場をもとに考えをまとめる場面が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年の巻頭に、具体的な学習の場面を想定した「社会科の見方や考え方」のコーナーが設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 各学年とも、1冊である。 □ 複数の資料を処理するのが困難な児童が資料を見分けやすいように、地図や写真などの資料には、カタカナで記号がつけられている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《社会》

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「キーワード」「むずかしいことば」や、「見る・調べる」「読み取る」のコーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、安全な暮らしを守るなど、自分たちができることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、世界で起こっている戦争・紛争地などを表した地図や、世界の環境保全の必要性が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、介護ロボットの開発について掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、食料廃棄の問題や、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されていることなどが取り上げられている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、自然災害にそなえ、自分たちができることを話し合う活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すために、1時間ごとの問いである「わたし(たち)の問題」や、「学習問題」や「さらに考えたい問題」が掲載されている。 □ 他教科との関連として、第4学年では、生活に使われる水の量を調べるために、第5学年の算数科で学ぶ体積(m³)の表し方が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、「学び方・調べ方コーナー」の「表現する」で、ノートに調べたことを自分の言葉でまとめる活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「くらしのなかに伝わる願い」で、長崎くんちの様子を描いた屏風の写真や後世に伝える事例などが掲載されている。 □ 体験活動に関して、全学年の巻頭に「見学しよう」「やってみよう」等、児童の体験的な学習の様子が写真で示されている。 □ 第6学年の巻末で、中学校の社会科で学ぶ内容を「地理」「歴史」「公民」三分野に分け、学びたいことなどをカードにまとめる活動が記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「インターネットの使い方」や、第5学年「インターネットでの調べ方」などの情報の集め方が示されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図や資料において、色だけでなく模様や地図記号で判別することが可能となっている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 単元の終末に「わたしたちの学びをいかそう」が設けられ、発展的な学習として児童が考えるきっかけになる資料が取り上げられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、地球儀における方位と距離の調べ方などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年「私たちの食生活を支える食料生産」で、異なる考えを発表し合い、話し合う場が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年で「見方・考え方コーナー」が設けられ、「空間」「時間」「関係」の3つの考える視点がマークで示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 各学年とも、1冊である。 □ 学習活動の中心となる写真や絵などの資料が大きく掲載されている。また、キャラクターが投げかける問いの吹き出しが掲載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《社会（社会）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において学習内容のキーワードとなる「ことば」が掲載され、巻末に一覧でまとめられている。また、「まなび方コーナー」では、社会的事象について調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「見学の計画を立てる」や、第5学年上の「折れ線グラフを読み取る」「土地利用図の読み取り方」などについて記載した「見る・聞く・ふれる」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
教出	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において「キーワード」が掲載され、巻末に「さくいん」として一覧にまとめられている。さらに、高学年においては、本文中でも太字で示されている。また、「学びのてびき」では、社会的事象について調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「買い物調べカードをつくる」や、第4学年の「二つのグラフに共通する動きを読み取る」などについて記載した「集める」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
日文	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において「キーワード」が掲載され、巻末に一覧でまとめられている。さらに「むずかしいことば」の項目による説明が掲載されている。また、「学び方・調べ方コーナー」では、社会的事象を調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「買い物調べカードの書き方」や、第4学年の「二つのグラフの読み取り方」などについて記載した、「見る・調べる」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「まなび方コーナー」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年下「フローチャートにまとめよう」などの「表現する」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において「つかむ→調べる→まとめる」の単元構成になっており、その中の「まとめる」では、単元における「学習問題」を確認しながら、自分の考えを文章でまとめる活動や、話し合ったり発表したりする活動が提示されている。第3学年の「くらしを守る」の単元の終末において「自分たちにもできること」や、第6学年政治国際編「わたしたちの生活と政治」の「公園づくりについて話し合おう」など、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
教出	「学びのてびき」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年の「三つの立場の関係を図に表す」などの「表す」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において「つかむ→調べる→まとめる→つなげる」の単元構成になっており、その中の「まとめる」では、「みんなでつくった学習問題」を確認しながら、課題の解決に向けて考えたことを話し合ったり発表したりする多様な活動が具体的に例示されている。第4学年「自然災害にそなえるまちづくり」の単元の終末で、地震や津波へのそなえとして大切だと思ったことややってみてみたいと思った取り組みを標語に表す活動など、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
日文	「学び方・調べ方コーナー」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年の「調べて考えたことを交流する」等の「表現する」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において、本文が「学習活動の説明→キャラクターの会話→学習内容の説明」に分けられている。また、キャラクターの会話を事例とした話し合い活動が例示された構成になっている。第3学年「安全なくらしを守る」の終末で、安全なくらしを守るためにできることは何かを話し合い、「さらに考えたい問題」についてノートにまとめる活動等、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年政治国際編「世界の未来と日本の役割」において、持続可能な開発目標（SDGs）が取り上げられている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年「地球規模の課題解決と国際協力」において、ともに助け合う大切さとして、世界の平和や環境を守るための日本人の活躍とともに、東日本大震災で世界の国々に日本が助けられたことが取り上げられている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年の「国際連合と日本の役割」において、世界で起こっている戦争・紛争地などを地図に表した資料や、世界の環境保全の必要性が求められていること、SDGsが取り上げられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第5学年下「工業生産」で、車いすのまま乗りおりにできる自動車や手だけで運転できる自動車が写真で掲載されている。また、目の不自由な人がさわって文字をたしかめられるペンを設計した東京都大田区の町工場が紹介されている。 第6学年歴史編「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、「元ひめゆり学徒の証言」が掲載されている。また、「戦争の犠牲になった子どもたち」として、小学生を含む多くの人々が乗っていた対馬丸の沈没について掲載されている。
教出	第5学年「工業生産」で「さまざまな願いにこたえる自動車づくり」として、ユニバーサルデザインが取り上げられている。また、車いすに乗ったまま乗り降りできる自動車や、「だれもが働きやすい工場」として、聴覚に障がいのある人が自動車工場で働く写真が掲載されている。 第6学年「戦争と人々の暮らし」で、ひめゆり学徒隊の手記が掲載されている。また、第6学年「世界の中の日本」で、世界から集まって話し合った小学生の代表が広島での平和記念式典で行った「平和の誓い」が掲載されている。
日文	第5学年「工業生産」で、ベットと車いすのあいだの乗り移りの動作を補助する介護ロボットを開発した人物の話と写真が掲載されている。 第6学年「アジア・太平洋に広がる戦争」で、沖縄戦について取り上げられ、ひめゆり学徒隊やひめゆりの塔などの慰霊碑が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の「食料生産」の単元において、「食品ロス」の問題や、食の安全・安心の確保について学んだり、これからの日本の食料生産について考えたりする内容が取り上げられている。 全学年において、いくつかの単元の終末に、児童が相互に説明や話し合いを行う学習を促す「いかす」が設定されている。
教出	第5学年の「食料生産」の単元の終末で、フードマイレージや地産地消について取り上げられている。また、郷土料理を中心とした地域ならではの食料生産について取り上げられ、地域の食文化を守ることの大切さについて触れられている。 全学年において、いくつかの単元の終末に、児童が話し合いや発表活動を行う学習を促す「つなげる」が設定されている。
日文	第5学年の「食料生産」の単元の終末で、これからの日本の食料生産のあり方を考えさせる際に、食料廃棄の問題が取り上げられている。また、日本の伝統的な食文化である和食がユネスコ無形文化遺産に登録されていることなどについて取り上げられている。 全学年において、学習問題について、キャラクターによる意見交換や話し合いの場面が例示されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第4学年「自然災害から暮らしを守る」において、地震から暮らしを守る取り組みについて調べてきた内容を「自助・共助・公助・互助」の観点でまとめる作業をとおして、自分たちには何ができるのかについて、整理して考えられる構成になっている。
教出	第4学年「自然災害にそなえるまちづくり」の単元の終末において、地震や津波にそなえたさまざまな人々の取り組みを通して、自然災害に対するそなえについて自分が大切だと思うことややってみようことを標語にする活動が示されている。
日文	第4学年「わたしたちの学びを生かそう」において、自然災害にそなえて自分たちができることについて話し合う場面が設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	全学年において、学習の流れをわかりやすく示す「つかむ」「しらべる」「まとめる」のマークが掲載され、それらのマークの下には本時のめあてが記載されている。また、単元のまとまりごとで「学習問題」が枠囲みで掲載されている。
教出	全学年において、学習の展開を「つかむ」「しらべる」「まとめる」「つなげる」で示し、「この時間の問い」と「次につなげよう」がセットで掲載されている。また、単元のまとまりで「みんなでつくった学習問題」が枠囲みで掲載されている。
日文	全学年において、おおむね1時間を見開きで示し、何について考えていくのかを明確に示す「わたし（たち）の問題」が掲載されている。また、単元のまとまりで「学習問題」や「さらに考えたい問題」が枠囲みで掲載されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	各学年の該当ページに「教科関連マーク」を表示して、理科・国語・家庭科等の関連する教科の学習内容が個別に記載されている。また、第3学年の巻頭に「生活科でまなんだこと」として、学んだことやできるようになったことが想起できるように記載されている。
教出	第3学年の巻頭に「生活科をふりかえろう」として、学んだことやできるようになったことが想起できるように記載されている。また、第3・4学年の巻頭に「他の教科とのかかわり」として国語・算数・理科・英語・道徳の学習内容が記載されている。
日文	第4学年の「けんこうなくらしを支える仕事」で、生活に使われる水の量を調べるために第5学年算数科で学ぶ体積（ m^3 ）の表し方や、第3学年「わたしたちのすんでいるところ」で、生活科での学習を想起させる会話を取り上げられている。第3学年で「安全マップ」を地域の人に発表する場面を設けている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第3学年「農家（工場）の仕事」の単元の終末「まとめる」で、学んだことを生かした宣伝シールをつくる活動や、第5学年下「わたしたちの生活と環境」の単元の終末「いかす」で、自然に対する2つのことなる立場から考えてまとめる活動等が記載されている。
教出	第3学年の「店ではたらく人と仕事」の単元の終末「まとめる」で、販売側と消費者側の双方の立場に立った資料を基にして話し合う活動や、第5学年「未来をつくりだす工業生産」の単元の終末「まとめる」で、順位付けをしてそれぞれの考えを説明する活動などが記載されている。
日文	第3学年の「店で働く人びとの仕事」で、スーパーの調べ学習のまとめにキャッチコピーを作る学習を「学び方・調べ方コーナー」で示し、調べて分かったことを自分の言葉でまとめさせる場面が設定されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第4学年「きょう土の伝統・文化と先人たち」の単元で、伝統芸能を年表にまとめることで、「時間の経過」について理解するとともに、古くから地域の人に親しまれながら受け継がれてきたということを理解する学習活動が取り上げられている。さらに、古いものを受け継ぎ、守っていくために自分たちにできることについて考える場面が設定されている。
教出	第4学年「地域でうけつがれてきたもの」の単元で、児童の興味関心を喚起する阿波踊りの迫力のある大きな写真が掲載されている。また、昔の阿波踊りの写真や阿波踊りに関する年表を掲載することで、「時間の経過」について理解するとともに、伝統文化がいかんして受け継がれてきたのかを示す資料構成になっている。さらに、古いものを受け継ぎ、守り伝えるために大切なことは何かを考える場面が設定されている。
日文	第4学年「くらしのなかに伝わる願い」の単元で、長崎くんちの様子を描いた屏風の写真が掲載され、「時間の経過」について理解するとともに、長崎くんちを後世に伝えていくために、長崎の様々な地域で取り組んでいる事例を紹介し、伝統芸能に対する姿勢や、思いを理解する構成になっている。さらに、「受けつぐ、広げる、もり上げる」をテーマに、キャラクターが話し合う場面が漫画で掲載されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第4学年「自然災害からくらしを守る」の単元の終末で、避難所を疑似体験して「共助」について考える「ひなん所シミュレーション」が設定されている。
教出	第3学年「わたしたちの市の歩み」の単元において、課題を追究する活動として市のうつりかわりを聞き取るインタビューが設定されている。
日文	全学年の巻頭に見開きで、「見学しよう」「やってみよう」等、児童の体験的な学習の様子が写真で示されている。また、全単元に「やってみようコーナー」が設けられ、地図帳で調べたり、作業したりする体験活動が設定されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第6学年の巻末で、「6年生で学んだこと」を単元別に写真も使用してまとめ、つぎに「中学校に向けて」で「歴史」「地理」「公民」に分けて写真も使用して示されている。さらに、中学校の社会科への期待について書く活動が取り入れられている。
教出	第6学年の巻末で、「6年生の学習をふり返ろう」で、学んだことを「政治・歴史・国際協力」ごとに「学んだこと」「考えたこと」「見方や考え方」に分けて記載されている。さらに、「中学生になったら…」で、中学校での「地理・歴史・公民」の学習の紹介が記載されている。
日文	「中学校の社会科では、どんなことを学ぶのかな。」として、中学校の社会科で学ぶ内容を「地理」「歴史」「公民」の三つの分野に分けて整理して記載されている。さらに、「学びたいことや、やってみたいこと」を、カードにまとめる活動例が記載されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	「学び方コーナー」で、第4学年「特色ある地域と人々の暮らし」の「四コマCMをつくろう」や、第5学年上「わたしたちの生活と食料生産」の「プレゼンテーションの資料をつくる」など、発達段階に応じた情報のまとめ方が示されている。
教出	第3学年の巻末「ワクワク！社会科ガイド」で、本やインターネットの調べ方やデジタルカメラの使い方について掲載している。また、「学びのてびき」で、第5学年「日本の国土とわたしたちの暮らし」の「インターネットでけんさくする」において、情報収集や発信元の信用性などについて掲載されている。
日文	「学び方・調べ方コーナー」で、第4学年「自然災害から人々を守る運動」の「インターネットの使い方」や、第5学年「情報社会に生きるわたしたち」の「インターネットでの調べ方」など、発達段階に沿った調べ方、表現の仕方が示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	見分けがしやすいように、挿絵や写真等の資料に番号をつけている。地図では、色の違いだけでなく、模様や形などで判別することが可能となっている。
教出	見分けがしやすいように、分布を示す地図資料において、色だけでなく形で判別することが可能となっている。また、帯グラフにおいて、見分けが付きやすい配色がなされている。
日文	見分けがしやすいように、分布を示す地図資料において、色だけでなく、模様や地図記号で判別することが可能となっている。
⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	全学年において「つかむ→調べる→まとめる→(いかす)」の単元構成になっており、学習の流れが分かりやすく示されている。巻頭に「○年生で学んだこと」「○年生で学ぶこと」、巻末に「○年生で学んだこと」が掲載されている。
教出	全学年において「つかむ→調べる→まとめる→つなげる」の単元構成になっており、学習の流れが分かりやすく示されている。巻頭に「生活科の学習をふり返ろう」「前の学年をふり返ろう」、巻末に「○年生の学習をふり返ろう」が掲載されている。
日文	単元の終末に「わたしたちの学びをいかそう」が設けられ、発展的な学習として児童が考えるきっかけになる資料が取り上げられている。資料から情報を得るため、いくつかの単元において、ページいっぱいの大きな一枚の写真が掲載されている。

⑩ 社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	第3学年「地図帳を使おう」や、第4学年「まなび方コーナー」の「地図帳を使ってみよう」において、地図帳のさくいんの使い方や距離の測り方などが取り上げられている。また、第5学年上「まなび方コーナー」の「地球儀の見方・使い方」において、距離や方位の調べ方が紹介されている。さらに、第5学年上「わたしたちの国土」の世界地図の学習では、大陸が色別に示されている。
教出	第3学年巻末「ワクワク！社会科ガイド」で「地図帳を使って調べよう」において、地図の見方やさくいんの使い方等について掲載されている。また、第5学年「学びのてびき」において、地球儀からさよりや方位を読み取る活動が掲載されている。さらに、第5学年「日本の国土とわたしたちの暮らし」で、世界地図と地球儀のちがいを読み取る活動が大きく取り上げられている。
日文	第3学年「学び方・調べ方コーナー」の「地図帳の使い方」において、地図帳のさくいんの使い方や地図の見方等について大きく取り上げられている。また、第5学年「学び方・調べ方コーナー」の「地球のすがたを知る」において、地球儀と地図のちがいや、方位と距離の調べ方等が大きく取り上げられている。さらに、第5学年の「日本の国土と人々の暮らし」で、地球儀や世界地図に慣れ親しむように、宇宙から見た地球の写真が取り上げられている。

⑪ 社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	第5学年下「わたしたちの暮らしと環境」の単元の終末で、さまざまな立場から鴨川をきれいにする取り組みについて掲載し、それぞれの立場で話し合う等、児童が多角的に考えられる題材が取り上げられている。また、「情報化した社会と産業の発展」で発信者側のそれぞれの立場で児童が多角的に考えられる題材を取り上げている。
教出	第5学年で、これからの日本の自動車生産について、少子高齢化などの社会に見られる課題を関連づけて、多角的に考える教材が掲載されている。また、「未来を考える食料生産」で、国内の食料生産を発展させていくために生産者・消費者の立場をもとに自分の考えをまとめる場面が設定されている。
日文	第3学年「市のようすと暮らしのうつりかわり」で、個人の意見をグループで共有しながら考えを深める様子が掲載されている。第5学年「私たちの食生活を支える食料生産」で、学習問題について異なる考えを発表し合い、多角的に考え話し合う場面が設定されている。

⑫ 学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	全学年において、児童だけでなく授業者にも問題解決的な学習を進めやすくなるように、「社会的事象の見方・考え方」を働かせた問いが、キャラクターを目印にした囲み（「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係（かかわり）」「比較・分類、総合、関連付けなど」で示されている。
教出	全学年の巻頭に「社会科の見方や考え方」のコーナーが設けられ、「社会的事象の見方・考え方」を、具体的な学習の場面を想定した、「場所や広がり」「時期や（時間の）変化」「くふうや関わる」「比べる」「関連づける」「総合する」などで示されている。
日文	全学年において、「見方・考え方コーナー」が設けられ、「空間」「時間」「関係」の3つの項目が、調べ、考えるための視点や方法として、マークで示されている。また、「社会的事象の見方・考え方」を働かせるための具体的なアドバイスが記載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。
教出	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。
日文	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	第3学年及び第4学年は各1冊、第5学年は上下巻で2冊、第6学年は政治・国際編と歴史編の2冊である。
教出	各学年とも、1冊である。
日文	各学年とも、1冊である。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「つかむ」「しらべる」「まとめる」単元の学習活動について、各活動ごとに、マークの形や色が統一されている。また、「読みやすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
教出	複数の資料を処理するのが困難な児童が資料を見分けやすいように、地図や写真などの資料には、カタカナで記号がつけられている。また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
日文	読み取りやすくかつ注目しやすいように、学習活動の中心となる写真や絵などの資料を大きく掲載している。また、地図や写真などの資料に、見分けやすいように番号がつけられている。キャラクターが投げかける問いの吹き出しが複数掲載されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第6学年歴史編「日本遺産を調べよう」で日本遺産に認定されている鎌倉を調べる事例が掲載されている。第6学年政治・国際編「中国の伝統的な文化」で、春節について横浜の中華街でも「お祝いの行事が盛大に行われます。」と紹介されている。
教出	第3学年のすべての単元で、横浜市や横浜市内の農家・工場等が取り上げている。また、4年「水はどこから」で、神奈川県の水道や水源について取り上げられている。第6学年「政治のはたらきをまちの中からさがして考えよう」で、川崎市の踏切に代わる地下通路の整備の事例が掲載されている。
日文	第4学年「村の立て直しにつくす」で、二宮金次郎（尊徳）が、「地いきの発てんにつくした人びと」の選択教材として掲載されている。第5学年「電力を地産地消する取り組み」で、小田原市での太陽光発電について取り上げられている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			教出			日文		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有		有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)									
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年		6年	
						5年上	5年下	政治国際	歴史
東書	6			302	366	267	298	254	337
教出	4			346	437	508		553	
日文	4			323	382	539		542	